

レボリューション

70年階級斗争を見つめ乍沖縄解放斗争の切腹 はた地平を深く広く押し進めよう!!

全明治の学友諸君!

4・28 沖縄解放斗争から70年安保反対程
内にいられた斗争として全都日本の労働者學生によつて戦斗的斗争に斗いとされた。

日米支配者階級が70年代階級斗争を我が手に取れるべく、安保一沖縄政権が70年を待つことなく、今年の6月2日の慶祝節米によつて「実質的」に決定されようとしている。その基調はの事前協議の有名無実化②後進日援助の積極的推進③自主防衛の努力、でありその下で「沖縄返還」であり「本土並」であるのである。更に6月初旬のASPAICにおいて韓日台灣等東南アジア支配者階級の「東洋防衛」に対する不安を解消し、6月～7月の日米貿易空港合同委員会で佐藤首相の訪米にむけでの総仕上げと沖縄一安保をめぐる政府ヌルジアジーの対外政策の大筋は6月～7月までに決定されようとしている。

「安保自動延長」によつてヌルジアジーは沖縄一本土の一体化政策を通してアジア＝太平洋経済圏の確保と反革命階級同盟の主人公として登場せんとしている。それは一方では自衛隊の沖縄常駐動く出来ない（うちも米軍の自由使用）—日本内の階級斗争に敵対し、帝國主義的ナショナリズムの散吹き通じてこれを圧殺しようとして、他方日本支配者階級がアメリカと共同で対外的階級支配の支拠強化とアジア太平洋圏の形成をなす帝國主義的対外政策であり、日本とロシアとオランダの革命に抗するものとして人民抑圧戦争に向けた政策である。

日米支配者階級の沖縄政権がの反革命階級同盟を含むアジア太平洋経済圏の確保の要であり②「自主防衛」の名の下での帝國主義軍隊＝自衛隊の強化にあるのとあります沖縄の労働者・学生の斗争は米民政府に

4/28 沖縄解放斗争噴火した大炎を内なる沖縄に噴火せよ

計する斗争であると同時に、日本支配者階級に対する斗争としてあり、本土での沖縄解放の斗争は日本法華基督教階級同盟に対する斗争として理解されなければならず、4・28斗争はそのような斗争として斗争報酬だ。

4・28斗争はまた佐藤政権の御用、本土並反墮論の美名（この）の裏で帝國主義的なナショナリズムもかがった大部分は、ハネることによっては自らの区別をなしえず、または政府の攻勢の前にならず手も离れて、お祭りねどり（立派な）の下で秋められた。強くこじかく人民の血や肉を榨取し、その報酬として日々の黒い死をもつまする支配者階級の毒牙を食ぬき、その偽善性を白日の下にさらし、更に沖縄安保が「国民の民意」というもやがこの外被をそつた帝國主義的ナショナリズムに階級的意志と团结によって対決し、ヌルジアジーの階級野望を見つめた。そしてマウロ年生を中心とした斗争が早くから勃発し、学生の更なる巨大会議を規定した。

- 沖縄解放斗争勝利
- 70年安保粉碎
- 反革命階級同盟粉碎
- 全マの学友は反帝学評の旗幟に結集せよ